

オープン市場短信 (2011年9月)

2011.9.09

◆ 8月のCP市場動向

8月のCP新規発行額は約4兆1000億円で、期落ち(約4兆1700億円:当月発行分含む)とほぼ同額の発行となった(除く、相対発行・金融機関発行CP・ABC)。月末発行残高は前月比1338億円減少し、16兆588億円となった。一般事法では、鉄鋼・建設業が増加。金法では、証券会社が発行増となった。ABCは大幅に減少し、1兆9千億円台となった。

発行レートの推移としては、8月も積極的な運用ニーズから、前月比弱含み地合いでの動きとなった。投資家が、前月よりもレートを切り下げ購入に動いたため、銘柄間格差及び期間格差が殆ど生じない状況となっている。

新発(3M)物の発行金利は、最上位銘柄(a-1+格)で0.110%~0.115%、一般事業法人(a-1格)で0.110~0.121%、その他金融銘柄(a-1格)では0.112%~0.163%であった。

【格付け別の発行レート】

8月のCPレートレンジ

(単位 %)

格付	1ヶ月		2ヵ月		3ヵ月	
a-1+(オペ適格)	0.103%	~ 0.117%	0.111%	~ 0.120%	0.110%	~ 0.115%
a-1(オペ適格)	0.105%	~ 0.122%	0.109%	~ 0.123%	0.110%	~ 0.121%
a-1+(リース銘柄)	0.106%	~ 0.109%	0.112%	~ —	—	~ —
a-1(リース銘柄)	0.112%	~ 0.130%	0.112%	~ 0.124%	0.112%	~ 0.163%
a-2	0.113%	~ ケ0.25	0.150%	~ ケ0.35	0.114%	~ ケ0.50

《CPオペ》

CP等買入オペは、10日・24日に2回入札があって、オファー額は各回3千億円にて実施された。10日オファー分では、7月末の発行増が寄与したためか応札額が増加し積極的な応札となり、按分・足切りレートは前回と同水準であった。24日オファー分では、8月に入り発行が低調だったことや発行レートの低下も影響し、按分・足切りレートともに0.002%低下した。8月末時点のオペ残高は、約1兆6141億円となった。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取 利回り較差	平均落札 利回り較差	按分比率
8月10日	8月15日	3,000	6,692	2,964	0.008%	0.009%	94.1%
8月24日	8月29日	3,000	5,472	2,723	0.006%	0.007%	74.3%

(注) 下限利回り(年0.1%)からの利回り較差方式

《ABC P》

ABC Pは、決算期末を除き残高減少が続いており、今月初めて2兆円を割り込んだ。ABC Pは、企業の資金調達が多様化やオフバランス需要から、05年9月末には発行残高は6兆円を超えていた。しかし、現在では、組成案件の減少と資金繰りの安定化もあり、今後その発行ニーズが強まる可能性は低いと思われる。

《短期社債残高》

業態別残高推移を見みると、前月比で一般事法が1.71%、金融機関3.76%とそれぞれ若干増加し、その他金融法人が2.05%の減少、ABC Pは11.4%と大幅減少した。

8月の新規発行企業は楽天カード一社で、通算の発行企業数は508社。月末時点における発行登録(証券保管振替機構)企業数は、490社であった。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	8月末残高	7月末残高	増減
一般事法	53,178	52,252	926
その他金融	52,895	53,978	▲ 1,083
金融機関	35,371	34,090	1,281
(政府系金融	570	480	90)
(銀行等	14,840	14,954	▲ 114)
(証券	19,961	18,656	1,305)
ABC P	19,144	21,606	▲ 2,462
計	160,588	161,926	▲ 1,338

(注: 買入消却分含む)

《CP現先市場》

月中現先(S/N)レートは、レポレートが若干強含み地合いとなる場面もあったが、CP発行レートの弱含み地合いを受け、月中を通じてほぼ安定推移し、

先月同様0.105%程度の出合いとなった。

◆ 9月のCP市場動向

9月中のCP償還額は約4兆4300億円で、前年同月の償還額（約4兆300億円）を上回っている（除く、ダイレクトCP・金融機関発行CP・ABC P）。

発行市場の動きとしては、9月中間期末を控え、有利子負債圧縮目的で期越え案件は限られ、月末残高は大幅に減少し15兆円を割り込むことが予想される。

日銀は、6・7両日にわたって“金融政策決定会合”を開催し、現状維持を決定した。8月に「資産買入等の基金」を10兆円程度増額することを決定したばかりであり、現在はその実行と効果を見守る段階で、追加緩和は見送られるとする向きが強かった。それでも、一部ディーラーによる追加緩和への思惑から、強めの札が入るなどして7日の発行レートは全般的に低下した。

発行レートは、調達コスト見合いで既に限界のところまで来ていると指摘されるが、運用のニーズは依然強くレートの下押し圧力は弱まりそうも無く、発行者優位の状況は当面変わらないだろう。一般事業法人（a-1格）3M物では、0.100台後半～0.115%割れ、その他金融では0.11%台前半～0.14%近辺を予想する。

《CPオペ》

今月は、13・25日の2回のオファーが予定されている。オペレート水準は、新発物の発行減少やレート低下もあり、前月よりもやや弱含み、利回り較差は0.005%程度を予想する。今月末のオペ残高は、月中の期落ち等を勘案し、1兆6～7千億円程度となると思われる。

《CP現先市場》

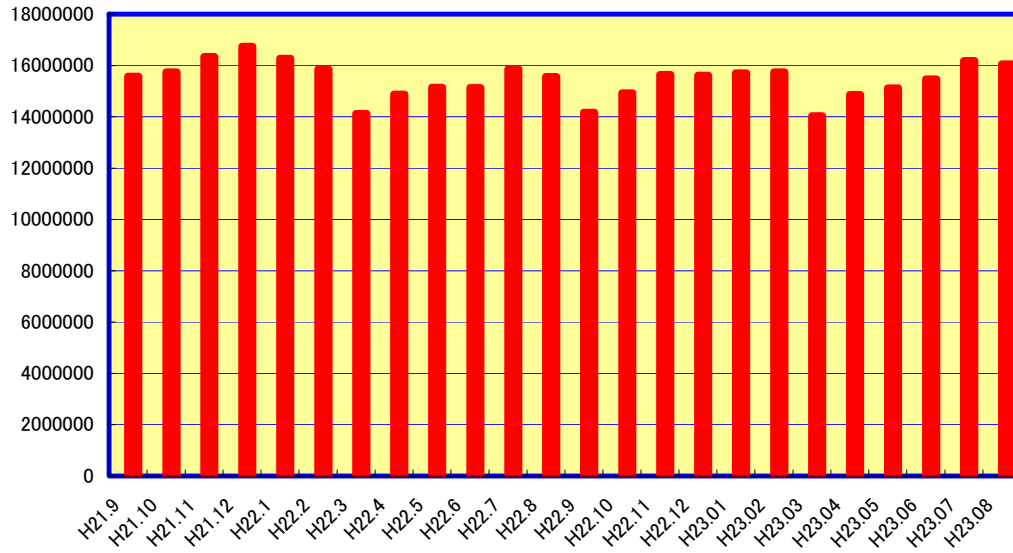
日銀は、今月もその潤沢な資金供給姿勢を維持し、インターバンク・レポレートは落ち着いて推移するだろう。現先レートについても、前月同様横ばい圏内での出合い（0.09%台後半～0.10%台半ば）を予想する。期末越えに関しても、0.105～0.11%台前半での落ち着いた取引となるのではないかと。

参考資料

短期社債月末残高 (H22年9月～H23年8月)

発行登録企業：490社（発行実績あり508社）

（過去2年間の残高を表示）



8 月末発行残高ベスト 20

8月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	8月末残高	7月末残高
1	三菱UFJリース	800,900	821,200
2	三井住友ファイナンス&リース	678,400	726,000
3	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	590,110	640,140
4	東京センチュリーリース	589,900	584,800
5	三菱UFJモルガンスタンレー証券	492,300	458,700
6	みずほフィナンシャルグループ	480,000	500,000
7	クレディ・アグリコル銀行	408,600	393,900
8	JXホールディングス	406,000	424,000
9	みずほ証券	387,400	372,600
10	大和証券キャピタルマーケット	381,980	410,480
11	東 芝	379,000	365,000
12	野村証券	369,000	280,000
13	アルカディア・ファンディング	351,350	365,630
14	新日本製鐵	347,000	278,000
15	ジェーエフイーホールディングス	342,000	284,000
16	興銀リース	333,000	333,300
17	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	313,820	346,590
18	芙蓉総合リース	295,100	299,100
19	JA三井リース	253,000	240,000
20	SMBC日興証券	233,000	205,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会